

## (42) まつ類

### ア 各病害虫の防除

こぶ病

すす葉枯病

すす病

苗立枯病

葉ふるい病

カイガラムシ類

マツカレハ（マツケムシ）

マツノマダラカミキリ

マツバノタマバエ

マツノザイセンチュウ

## ア 各病虫害の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病虫害)

### こぶ病

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 幹、枝、露出根に大きいこぶを生じ、1～2月頃にあめ状の粘液が、4～5月に黄色粉がでる。

(耕種的・物理的防除)

- 1 カシワ、クヌギ、コナラ、ミズナラなど中間寄主を同じほ場に植えない。
- 2 1月～2月に病株を切り取り、処分に努める。

### すす葉枯病

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 針葉の先から半分位が褐色に変色する。後に灰褐色に変わり病斑上に小黑粒点を多数生じる。
- 2 マツの生長開始期前後の異常気象(特に多雨)が有力な誘因となる。

(耕種的・物理的防除)

- 1 表土の薄い畑や保水力の悪い畑に植付けない。
- 2 亜硫酸ガス濃度が高いほど発病しやすいので、大気汚染の甚だしい所では栽植しない。

### すす病

---

(予防に関する措置)

- 1 病原菌はカイガラムシの分泌排泄物に繁殖し、黒いカビをつけるため、[本項のカイガラムシ類の防除](#)に基づき防除を行う。

(耕種的・物理的防除)

- 1 通気不良な多湿地にしやすいので、このような場所での栽培を避ける。

### 苗立枯病

---

(予防に関する措置)

- 1 床土を消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

(判断、防除に関する措置)

- 1 幼苗地際部がくびれて褐変し倒れる。坪枯状にでることが多い。発芽しないこともある。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 いずれかの薬剤を施用する。

### 葉ふるい病

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 春の病葉の一部又は全体が褐変落葉する。病葉にはだ円形、漆黒で中央に縦の裂け目をもった菌体が見える。

(耕種的・物理的防除)

- 1 有機質不足地などに多いので、肥培管理をよくする。病葉は処分する。
- 2 広葉樹を下木にする(発病が少なくなる)。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(散布)する。

### カイガラムシ類

---

(予防に関する措置)

- 1 適宜剪定を行い、成虫の寄生した枝は除去するとともに、薬剤がかかりやすい樹形を維持する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 幼虫発生初期に薬剤を施用（散布）する。  
※気門封鎖剤は冬季に施用する。  
※カルホス乳剤は、薬害を生ずるので注意する。

## マツカレハ（マツケムシ）

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 秋遅くとも10月前半までに幹にわらなどを巻き（バンド誘殺）、越冬幼虫を集めて処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 幼虫発生前～幼虫発生期に薬剤を施用（散布、樹幹注入）する。

## マツノマダラカミキリ

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 特に老木に被害が大きい。マツノマダラカミキリは枯損の原因となるマツノザイセンチュウを媒介する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 成虫は見つけ次第捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 成虫を対象に薬剤を施用（散布）する。
- 2 薬剤を使用して加害された伐倒木をくん蒸し、内部の幼虫を死亡させる。

## マツバノタマバエ

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 年1世代、蛹越冬、成虫は4月中旬出現、針葉基部に産卵、幼虫もそこを食害し、だ円形にふくれ枯れる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 4月中旬～5月の成虫が発生する時期に、薬剤を施用（散布）する。

## マツノザイセンチュウ

---

(予防に関する措置)

- 1 媒介虫となるマツノマダラカミキリ成虫の防除を行う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 マツノマダラカミキリ成虫の発生前に薬剤を施用（樹幹注入）する。